

会議録	
会議名	第5回三豊市地域公共交通活性化協議会
日時	令和3年2月5日（金）10時00分～11時40分
場所	三豊市役所 西館大会議室
出席者	<p>[委員] 11名 宮崎耕輔（会長）、紀伊雅敦（副会長）、小野英樹、 鴨田嘉史、峰久數俊、西丸範生、佐治康弘、齊藤亮、 滝口直樹、藤井浩基（近藤委員代理）、手嶋一了</p> <p>[事務局] 4名 交通政策課（石原課長、細川課長補佐、金藤主任、田尾副主任）</p> <p>[委託業者] 2名 株式会社地域未来研究所（小野田、義浦）</p>
議事	<ul style="list-style-type: none"> ・現地調査の報告について ・地域公共交通の活性化及び再生に関する法律等の改正について ・三豊市地域公共交通計画基本構想（案）について

発言者	会議要旨
	<開会>
宮崎会長	1. 会長挨拶
事務局	2. 現地調査（南部地域）の報告について <説明>
宮崎会長	以上の説明について、質問・意見等があれば。 <質問・意見等は特になし>
事務局	3. 地域公共交通の活性化及び再生に関する法律等の改正について <説明>
手嶋委員	<補足説明>
宮崎会長	計画は関係者全員でつくり、協力しながら進めていくものである。まちづくりはひとづくりと言われるように、ハード整備だけではなくソフト施策も関係しているため、地域で取り組んでいるものすべてが、まちづくりと関係すると言っても過言ではない。三豊市では、企業と連携したプロジェクトを多数実施してい

	<p>るため、協議会で情報共有していただきたいと思っている。計画をつくっていくにあたり、辞書的に制度を使うようにしてはどうかと考えている。</p>
事務局	<p>4. 三豊市地域公共交通計画基本構想（案）について <説明></p>
宮崎会長	<p>以上の説明について、質問・意見等があれば。</p>
紀伊副会長	<p>基本構想では、地域旅客運送サービスの持続可能な提供の確保に資する地域公共交通の活性化及び再生の推進に関する基本的な方針の部分が提示されている。「行きたいときに 行きたいところに 行けるまち」という基本方針は、とてもわかりやすく、良い標語だと思う。実現しようとするれば、野心的な標語であるとも思う。行きたいときに行きたいところとなると、自由度がなければ、実現することは難しいが、まちづくりと組み合わせて考えることにより、実現できるようになる。12月に開催された四国運輸局主催のシンポジウムにおいて、IBSの牧村様から、人の移動の特性を考えた時に、毎日、同じ場所に行っている訳ではなく、いろいろな場所に行く特性があり、その移動したい目的地をどのようにまちに配置するかによって、移動を束ねられるかが決まってくるとの話があった。三豊市のまちづくりとして、多極分散型ネットワークのまちづくりを目指していることから、多極をどのように結ぶかについて地域公共交通計画で考えていくことになると思う。いくつかの拠点が見られているが、そこにある程度目的地となるような場所を集約することができれば、移動を公共交通という手段で集約することにより、市民生活を支えられるようになる。一方で、目的地となる場所が、分散されることになると、移動を公共交通ですべてカバーすることは難しくなる。</p> <p>運輸局へ質問だが、地域公共交通計画の目標において、収支や公的負担という具体的内容まで踏み込んで記載されているが、法定記載事項をまとめれば地域公共交通計画として認められるのか。</p>
手嶋委員	<p>公共交通計画は、努力義務として地方公共団体が作成することになっている。法定記載事項の7項目を記載すれば地域公共交通計画として認められる。計画の中で、目標を達成するために行う事業及びその実施主体という項目があるが、ここで公共交通の統合や分割等の方向性が示された時に、地域公共交通利便増進事業等の事業を活用することができる。着実に計画を作成し成果を出してもらうために、目標値として実績を出すことを目指して、利用者数や収支、公的負担等を定量的に追うようにしている。地域に応じて取組は様々であるため、目標</p>

<p>宮崎会長</p>	<p>を達成するために行う事業及びその実施主体については、関係者で議論し、国の認定制度に該当する事業があれば、活用していただきたいと考えている。</p> <p>計画の目標として利用者数や収支が示されているが、目標の位置付けは、地域で何を目標しているのかということを念頭に置きながら、現状を把握するという意味合いでの評価指標という認識が正しい理解ではないかと考えている。従って、地域によって状況が異なるため、何をどのように整理して、指標を設定していくのか議論していく必要がある。事業は様々なものがあるが、三豊市にとって何が必要かをきちんと考えた上で事業に取り組んでいかないと、本末転倒になってしまう。</p> <p>まちづくりとの連携については、細かな移動が漏れ落ちている可能性があり、地域拠点に目的地となる場所を集約することによって、交通を束ねることができるようになる。これは公共交通だけでなく地域経済にも影響することになる。地域の中でどのような移動があるかについては、把握しておく必要がある。</p>
<p>藤井代理</p>	<p>地域旅客運送サービス継続事業について、新型コロナウイルス感染症の影響により、貸切バスや高速バスの利用者が激減し、利用者が戻ってくる見込みも今のところない。そうすると、これまでそれらが担っていた路線バスの収益をどこで補填すれば良いのか。それを自治体が負担することは無理であり、この事業の活用について検討することになるのではないかと考えている。</p>
<p>宮崎会長</p>	<p>目標に収支率を設定する自治体もあるが、収支額を示した方が良いのではないかと考えている。理由として、JR 四国の赤字額を四国の人口で割ると年間1人あたり3,000~4,000円ぐらいになるというように、わかりやすい。また、年間パスの発券等の新たな取組について検討しやすくなる。このため、目標設定の方法は工夫が必要。地域公共交通網形成計画の策定状況を見ると、市町村単体の計画は多く策定されているものの、広域ではそれほど多く策定されていない。このため、国土交通省は広域での計画策定を推進しているが、その理由としては、市町村単独で日常生活の移動が完結していないことが挙げられる。これに関連して、三豊市の地域公共交通ネットワークの概念図について、鉄道も市外への移動手段として利用されるため、市外の表示方法を修正してはどうか。関係主体の主な役割においては、行政の役割にある「連携した取り組みのコーディネート」は、状況次第で行政がコーディネートすることが難しい場合があるため、内容を再検討してはどうか。基本方針は、漢字一文字でイメージを示しており、わかりやすく、基本理念においても同様のことが言える。基本方針については、説明文で十分に説明されているか確認してもらいたいと思う。</p>

齋藤委員	<p>関係主体の主な役割で、市民の役割の中に「地域の共助による地域内交通の検討」とあり、これまで公共交通というのは、行政や交通事業者が担うものと思っていたが、住民同士で自家用車を乗り合うこともありうることに気づかされた。すべての公共交通を行政や交通事業者で担うことはなく、自治会に頼ることも大切であると思った。このことも踏まえ、基本方針の4つ目の説明文に、住民同士の助け合いについて触れても良いのではないか。</p>
佐治委員	<p>基本方針に関して、公共交通は、高齢者の通院に利用されることが多い。目的地として、商業施設のほか、医療施設についても示した方が良いのではないか。また観光利用についても、収支に影響を及ぼすため、基本方針に含めた方が良いのではないか。</p>
宮崎会長	<p>以前、三豊市の住民にヒアリング調査を実施した時に、コミュニティバスは買い物と通院にしか利用できないとの話があった。日常のレクリエーションでも公共交通が利用できるようにしなければならないため、キーワードの追加等、説明文を見直す必要がある。</p>
紀伊副会長	<p>市民が移動サービスを担う場合の行政によるサポートとして、例えば、市民が自家用有償運送で交通事故を起こした時の対応として、行政が保険料を支援する等の仕組みも考えられる。MaaS等の新しいモビリティの取組においても保険制度が検討されていると思われ、ドローンの取組においても、保険会社や保険制度に詳しい有識者が参加している。</p>
宮崎会長	<p>新しいものができると、さまざまな産業が活発に動き出す。こちらから情報提供をした場合は、向こうからも情報提供をしてもらった方が良い。基本理念や基本方針は基本構想の軸となるものであるため、他に意見がある場合は、事務局へ連絡いただきたい。</p>
事務局	<p>本日いただいた意見等を踏まえ、基本構想を再考させていただく。</p>
事務局	<p>5. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスのダイヤ改正等、令和3年度の協議会運営について <p>2月1日に地域公共交通会議を開催し、JR四国のダイヤ改正に伴い、4月1日からコミュニティバスのダイヤを改正することになった。主な取組として、商業施設との連携があり、ゆめタウン三豊に財田高瀬線、豊中仁尾線、財田観音寺線の3路線が乗り入れを行うことになった。</p>

宮崎会長	<p>令和 3 年度の協議会では、計画の目標や具体的な事業について検討していただく予定。来年度は5月頃に開催したいと考えているが、年度を跨ぐため、人事異動等により委員交代ある場合は連絡をいただきたい。</p> <p>隣接市町である観音寺市や琴平町とも、公共交通についての話し合いができれば良いと思っている。来年度、委員の交代等もあるため、協議会の趣旨について再確認をしたいと考えている。</p> <p>以上で、第5回三豊市地域公共交通活性化協議会を終了する。</p>
------	---